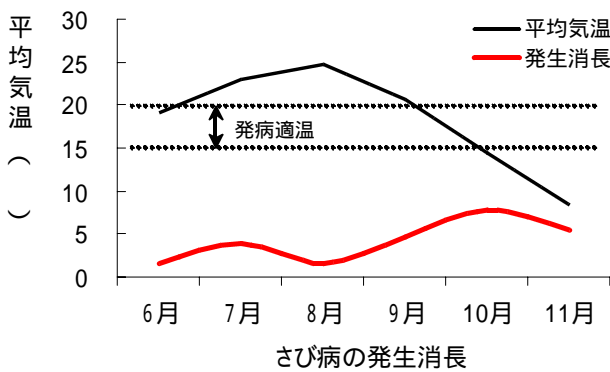


さび病 Rust (*Puccinia allii*)



さび病の病斑



結露	結露継続時間が7.5時間以上
温度	結露中の平均気温が6℃以上20℃以下
降水量	結露中の降雨が8mm未満、8mm以上の場合は結露中の無降雨時間が7.5時間以上
風速	結露中の平均風速が1m/s未満

2003：秋田県病害虫防除所

【見分け方】

葉の表面に橙黄色で紡錘形または楕円形の少し盛り上がった斑点を生じて、ネギ葉の外観を損ねるため品質の低下を招く。発生程度は軽くても比較的被害が大きい病害である。発生程度の大きい葉は病斑に覆われて枯れる。

【発生生態】

発生は初夏から梅雨期にかけてと、秋期の2回みられる。第1回目の発生は越冬した冬胞子が伝染源となって発病する。潜伏期間が10日くらいで発病し、夏胞子を形成する。第2回目の発生は夏胞子が第2次伝染源となって秋期に発病し、周囲の株に蔓延する。特に冷夏の年は多発する傾向がある。年により発生量の差が大きく、多肥および肥料切れや排水不良条件が発病を助長する。

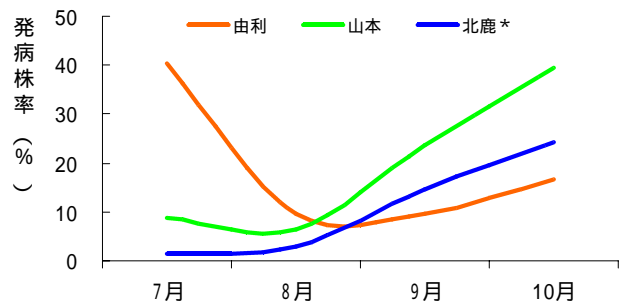
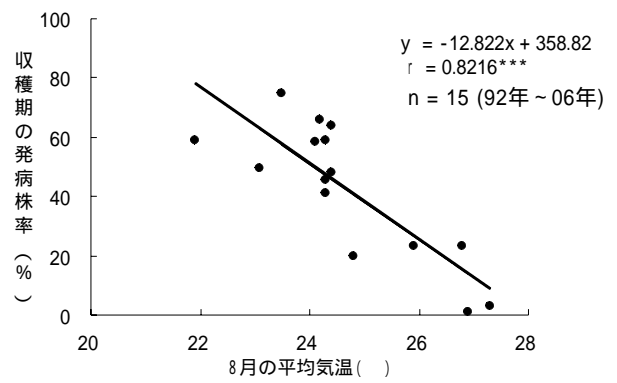
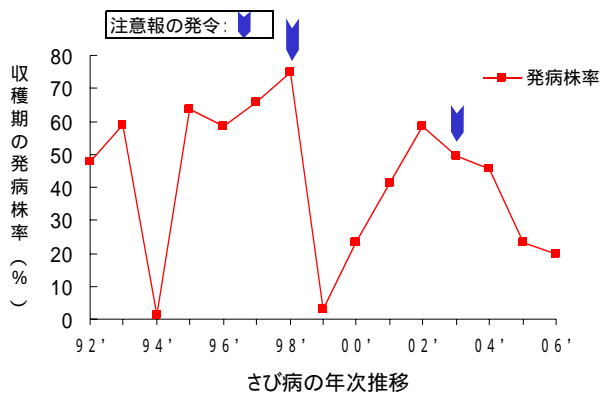


図 - 2 各地域の発病推移 (過去12年最大最少年除く10年平均値)
*北鹿: 鹿角市、大館市



夏期の気温がさび病に及ぼす影響
 (収穫期: 10月下旬~11月上旬)